



就任のご挨拶

横河電機健康保険組合
理事長 山崎 正晴

横河電機健康保険組合の事業主各位、並びに被保険者とそのご家族の皆さまには、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

この度、笹田前理事長の後任としまして、7月1日付で当健康保険組合の理事長に就任いたしました。

当健康保険組合は、1936年（昭和11年）に設立され、これまで歴代理事長のご尽力と皆さま方のご理解とご協力のもと、長引く景気低迷の中でも保健事業を後退させることなく、皆さま方の健康づくりへの取り組みに努め、円滑な事業運営を進めてまいりました。

しかし、現在の健康保険組合を取り巻く環境はこれまでになく厳しいものとなってきております。それは平成20年度の高齢者医療制度の創設以降、支援金・納付金等の負担が急増し、その上、平成22年度から24年度にわたり本来国の責任において行うべき「協会けんぽ」の国庫補助の一部を健康保険組合等に肩代わりさせる内容を含む国民健康保険法等の一部改正が決定いたしました。更には最近の経済・雇用情勢の悪化による、標準報酬月額および賞与額の落ち込み、被保険者数減などで保険料収入が大幅に減少したことが要因です。

そのようななか、当健康保険組合も、今年度は平成16年度以来据え置いてきた保険料率を上げさせていただきましたが、それでも経常収支がマイナス16億円という大幅な赤字予算でスタートしております。赤字の主要因は、保険給付中の法定給付と納付金・支援金が保険料収入の110%にもなっているためです。従いまして、来年度の保険料率につきましても、積極的な事業の改善施策を進めるなかで、今後の状況を見定めながら、慎重に検討してまいりたいと考えています。

このように非常に厳しい状況ではありますが、今後も健康保険組合本来の役割を忘れず、一次予防をより意識した保健事業に積極的に取り組むことに努め、皆さまの健康づくりと医療費削減による健保財政の健全化を目指してまいります。また、皆さまにおかれましても、日々の生活と健康管理に十分配慮し、お過ごし頂けますようお願い申し上げます。

このような時期に理事長に就任し、その責務の重大さを強く感じておりますが、各事業所とも十分なコミュニケーションをとりながら、微力ではございますが、皆さまとそのご家族の健康、また、健康保険組合の健全で安定的な事業運営のために全力を注ぐ所存でございます。今後も皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。